令和3年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業
地域日本語教育スタートアッププログラム　報告書

団体名　　佐賀県みやき町　　（都道府県：佐賀県）

1. 当該地域の情報　（令和3年12月現在）

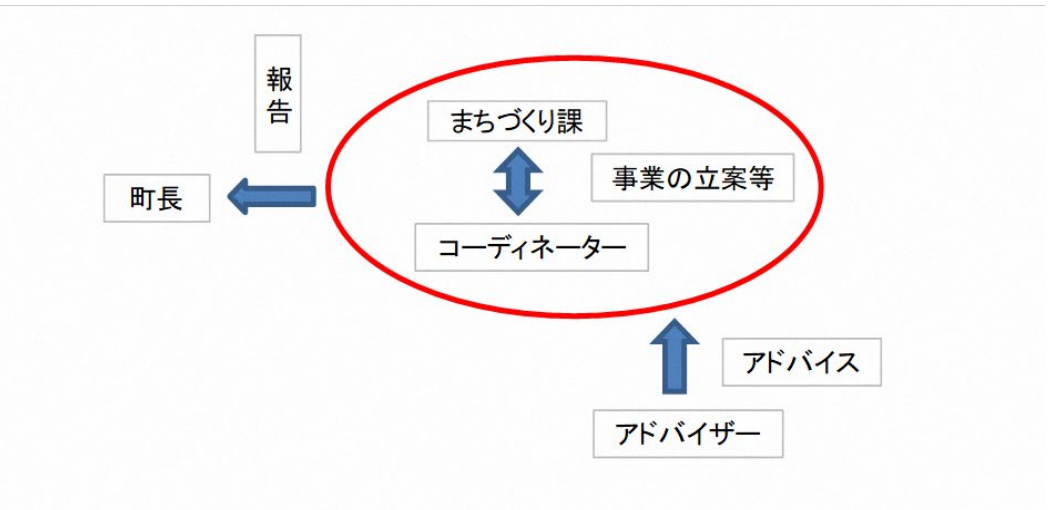
地域の課題	本町に居住する外国人住民の割合では、令和3年12月現在で技能実習生が約6割となっている。技能実習生については、ほとんどが企業周辺に居住しており、地域住民として少なからずとも顔を合わす機会がある。そのなかで、地域住民と町内に居住する技能実習生が同じ地域住民として支え合う関係構築を行うことが課題であり、重要であると思われる。 また、技能実習生以外の外国人住民についても同様であり、日本人住民が広く多文化共生について理解し、日本人・外国人住民が共創し豊かなまちづくりを推進していくことも課題であると思われる。
在住外国人数 外国人比率	190人 0.73%
在留外国人の状況	【主な国籍】 ベトナム　77人、中国　49人、フィリピン　22人、ネパール　14人、ミャンマー　11人、韓国　5人、インドネシア　3人、 スリランカ　3人、タイ　2人、米国　1人、英国　1人、ラオス　1人、カンボジア　1人 【在留資格】 技能実習2号ロ　69人、永住者　37人、技能実習1号ロ　13人、特定活動　13人、技能実習3号ロ　11人、技・人・国　11人 家族滞在　8人、日本人の配偶者等　7人、留学　3人、定住者　3人、技能　2人、その他　13人 【滞在年数・在留期間などの状況】 技能実習が外国人全体の6割を占めている現状である。また、長期的に滞在する、永住者や日本人の配偶者等については、外国人全体の2割を占めている状況である。
在住外国人の日本語教育の現状	本町の国際交流事業としては、外部団体である「みやき町国際交流会」が活動しており、食文化交流会を通して、外国人との交流を行う場はあるが、料理交流の講師はほとんどが町外の外国人であったため、本町在住の外国人と町民とが交流し、異文化理解をする場がない。 令和元年度に日本語教室のプレ開催を行い、令和2年度より定期的に日本語教室を開催することとしていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、対面での教室を行うことができなかったため、オンラインでの教室の開催をしていく必要があると考える。

2. 事業の内容

本プログラム取組年数	3年目			
事業の目的	日本語教室を定期的に開催し、3年目終了後の体制の確立を行う。 企業の積極的な日本語教室の参加を促し、地域全体で多文化共生への理解の醸成を行う。			
事業の概要	・日本語教室の開催 日本語教室を定期的に開催し、事業終了後の体制の確立を行った。 学習者の参加がないときには、サポーターの養成講座に切り替え、知識の醸成を図った。 ・継続的な企業訪問 継続的な企業訪問を行い、日本語教室への積極的な参加を呼び掛けた。 ・新たなサポーター（ボランティア）人材の確保 現在のサポーターの年齢が高齢化していることを踏まえ、若い人材の確保を行うために、近隣の高校をコーディネーターが訪問し日本語教室への積極的な参加を呼び掛けた。			
事業の対象期間	令和3年4月～令和4年3月			
前年度の実績（2年目以降の団体のみ記載）	・サポーター養成講座 ボランティアとして日本語教室を支える人材を確保することができ、日本語教室の基盤を作ることができた。 ・企業の継続的な訪問 企業訪問を積極的に行うことにより、企業の担当者や外国人労働者に、日本語教室や町の多文化共生に関心を持ってもらうことができた。いくつかの企業からは、積極的に日本語教室に参加するよう、外国人労働者へ呼びかけを行ってもらうこともできている。 ・日本語教室 新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度の教室は中止となったが、申込者のうち外国人参加者がサポーターを上回っていたため、改めて日本語教室のニーズの把握をすることができた。			
担当コーディネーター	氏名	所属	職名	担当する役割
	橋本　美雪	みやき町国際交流会	－	システムコーディネート
	北原　コズヱ	みやき町国際交流会	－	教室のコーディネート
	中村　静佳	みやき町日本語ひろば	－	教室のコーディネート
	武田　朋子	みやき町国際交流会	－	システムコーディネート
	大坪　学	みやき町	主幹	システムコーディネート
	永田　晃己	みやき町	主任	システムコーディネート
担当アドバイザー	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	砂川　裕一	群馬大学	名誉教授	継続（3年目）
	八木　浩光	一般財団法人熊本市国際交流振興事業団	事務局長	継続（3年目）
	米勢　治子	東海日本語ネットワーク	副代表	継続（3年目）

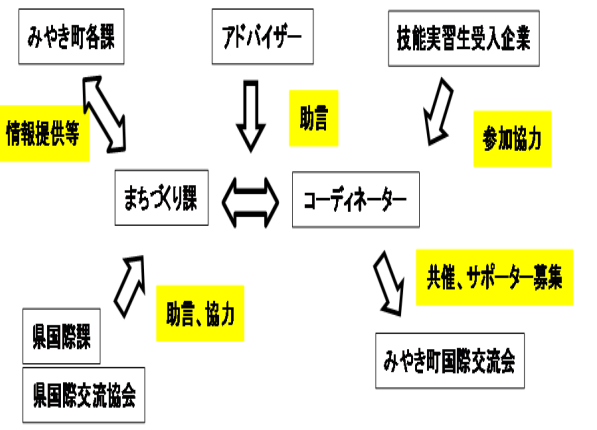
3. 日本語教室の設置に向けた検討体制

（1）地域における日本語教育の実施に向けた検討体制

検討体制	**まちづくり課を中心に、コーディネーターとともに事業の提案等を行う。その際、有識者である、アドバイザーからの助言をもとに事業等の検討を行う。** **事業を行うにあたり、町内関係各課に情報提供などの協力を依頼する。** 

所属（担当課）	担当者名	職名
みやき町まちづくり課	永渕　博朝	課長
みやき町まちづくり課	大坪　学	主幹
みやき町まちづくり課	永田　晃己	主任
みやき町国際交流会	橋本　美雪	コーディネーター
みやき町国際交流会	北原　コズヱ	コーディネーター
みやき町日本語ひろば	中村　静佳	コーディネーター
みやき町国際交流会	武田　朋子	コーディネーター

（2）日本語教室の実施に向けた事業運営体制図

地域の機関・団体との連携体制	機関・団体との連携については状況に応じて柔軟に判断し、決定を行う。 ・文化庁選任アドバイザー（事業全体への助言） ・町選任コーディネーター（講座等の講師や連携する機関等との調整の協力） ・技能実習生受入企業（イベントへの積極的な参加協力） ・みやき町国際交流会（イベントや講座の共催、コーディネーターとして活動できる協力者勧誘） ・佐賀県国際課（事業全体への助言、イベント等に関しての助言） ・（公財）佐賀県国際交流協会（事業全体への助言、イベント等への助言、講師等の派遣） ・みやき町役場各課（外国人住民等の調査の際の情報提供や、イベント等の開催時の協力） 

組織・団体・機関名	担当部局	職名	担当者名
佐賀県	国際課	多文化社会コーディネーター	北御門　織絵
（公財）佐賀県国際交流協会	—	主事	平　実穂
みやき町国際交流会	—	会長	大森　斉
みやき町	住民窓口課	課長	橋本　崇司
みやき町	総務課	課長	黒田　栄治
ピックルスコーポレーション西日本	—	工場長	木村　誠
ボローニャマックス	—	—	石野　恵里
群馬大学	—	名誉教授	砂川　裕一
熊本市国際交流振興事業団	—	事務局長	八木　浩光
東海日本語ネットワーク	—	副代表	米勢　治子
みやき町国際交流会	—	副会長	橋本　美雪
みやき町国際交流会	—	—	北原　コズヱ
みやき町国際交流会	—	—	武田　朋子
みやき町日本語ひろば	—	コーディネーター	中村　静佳

4. 具体的な取組内容

(1)年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの主な活動	アドバイザーの来訪
令和3年 4月	・技能実習生等の現状把握のための企業訪問(2回) ・コーディネーター会議 教室内容の協議	・企業訪問(2回) ・コーディネーター会議	
令和3年 5月	・コーディネーター会議(2回) 教室内容の協議 ・アドバイザー会議 事業計画の策定	・コーディネーター会議(2回) ・アドバイザー会議	★事業計画の策定(ZOOM対応) ・砂川シニアアドバイザー ・八木アドバイザー ・米勢アドバイザー
令和3年 6月	・日本語教室の広報のための企業訪問 ・コーディネーター会議(2回) 教室内容の協議 ・日本語教室	・企業訪問 ・コーディネーター会議(2回) ・教室の統括、コーディネート、サポーターの補助	
令和3年 7月	・コーディネーター会議 教室内容の協議 ・日本語教室	・コーディネーター会議 ・教室の統括、コーディネート、サポーターの補助	
令和3年 8月	・コーディネーター会議(2回) 教室内容の協議 教室活動の振り返り	・コーディネーター会議(2回)	
令和3年 9月	・コーディネーター会議 教室運営方法についての協議	・コーディネーター会議	
令和3年 10月	・技能実習生等の現状調査及び今後の雇用等の確認のための企業訪問 ・コーディネーター会議(3回) 企業訪問情報の共有 教室内容の協議 ・日本語教室	・企業訪問 ・コーディネーター会議(3回) ・教室の統括、コーディネート、サポーターの補助	
令和3年 11月	・コーディネーター会議(3回) 教室内容の協議 ・日本語教室(2回)	・コーディネーター会議(3回) ・教室の統括、コーディネート、サポーターの補助	
令和3年 12月	・コーディネーター会議(3回) 教室内容の協議 ・日本語教室(2回) ・アドバイザー会議 活動の現状について 今後の方針について	・コーディネーター会議(3回) ・教室の統括、コーディネート、サポーターの補助 ・アドバイザー会議	★活動の現状について協議 日本語教室の視察 サポーターとの意見交換 今後の方針について協議 ・砂川シニアアドバイザー ・八木アドバイザー ・米勢アドバイザー
令和4年 1月	・コーディネーター会議(3回) 教室内容の協議 次年度の教室内容等の協議 ・日本語教室(2回) ・アドバイザーとの協議	・コーディネーター会議(3回) ・教室の統括、コーディネート、サポーターの補助 ・アドバイザーとの協議	★日本語教室の視察 教室のフォローアップ ・八木アドバイザー
令和4年 2月	・コーディネーター会議(3回) 教室内容の協議 次年度の教室内容等の協議 ・日本語教室(1回) ・アドバイザー会議 今年度の活動の振り返り	・コーディネーター会議(3回) ・教室の統括、コーディネート、サポーターの補助 ・アドバイザー会議	★今年度の活動についての振り返り (ZOOM対応) ・砂川シニアアドバイザー ・八木アドバイザー ・米勢アドバイザー
令和4年 3月			

(2)立ち上げた日本語教室の詳細

教室の名称	みやき町日本語ひろば ～ちかっとにほんご～		
外国人参加者について	[国籍]ベトナム8名、フィリピン5名、ミャンマー3名、ネパール1名、タイ1名、アメリカ1名、ジャマイカ1名、オーストラリア1名 [属性]技能実習生や永住者等が主な対象	参加者数 （内 外国人数）	受講者　32名 支援者　91名 （日本語指導者0名、サポーター0名）
開催時間数	総時間　14.5時間	内訳　1.5時間　×　7回（日曜日） 1.0時間　×　4回（水曜日）	
目標	教室を通して、日常生活で必要な日本語を習得する。 交流を通して、顔の見える関係作りを行い、地域に入っていける環境づくりを行う。		

実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	内容	授業概要	支援者数
1	2021年6月20日 13:30～15:00	1.5	みやき町 こすもす館	10	オリエンテーション	・やさしい日本語について ・アイスブレイク ・自己紹介 ・自国紹介	サポーター　19名
2	2021年7月18日 13:30～15:00	1.5	みやき町 こすもす館	6	日本文化について （折り紙）	・アイスブレイク ・折り紙の折り方の名称 ・折り紙でいろんなものを作ってみる	サポーター　15名
3	2021年10月31日 13:30～15:00	1.5	みやき町 こすもす館	3	防災	・アイスブレイク ・台風の対策 ・避難場所について ・避難場所に持っていくもの	サポーター　7名
4	2021年11月10日 19:30～20:30	1.0	みやき町 こすもす館	2	生活情報①	・アイスブレイク ・テイクアウトクーポンの使い方	サポーター　5名
5	2021年11月21日 13:30～15:00	1.5	みやき町 こすもす館	2	ゴミの出し方	・アイスブレイク ・担当課よりごみの種類について説明 ・ゴミを出す場所の確認 ・仕分けをしてみる	サポーター　10名
6	2021年12月8日 19:30～20:30	1.0	みやき町 こすもす館	0	生活情報②	・みやき町の行政施設の紹介 ※学習者がいなかったため、急遽、養成講座に変更	サポーター　8名
7	2021年12月19日 13:30～15:00	1.5	みやき町 こすもす館	5	日本文化について （書道）	・言葉遊び ・書道に使う道具の説明 ・書道体験	サポーター　15名
8	2022年1月12日 19:30～20:30	1.0	みやき町 こすもす館	1	慣用句について	・慣用句について学ぶ	サポーター　3名
9	2022年1月16日 13:30～15:00	1.5	みやき町 こすもす館	3	交通ルール	・アイスブレイク ・警察署員からの交通ルールの説明 ・自転車に関係のある標識を学ぶ ・シミュレーターを使って実際に街中を運転してみる	サポーター　9名
10	2022年2月9日 19:30～20:30	1.0	みやき町 こすもす館		生活情報③	※新型コロナウイルスの影響により会場の使用ができなくなったため中止とした	
11	2022年2月27日 13:30～15:00	1.5	みやき町 こすもす館		食文化	・アイスブレイク ・イラストを活用し、作ってみたい日本の料理をグループで作り方などを話し合う ・イラストの食材で、外国の料理は何が作れるかを、日本人に教える。	サポーター　名

【主な活動】

7月教室活動（折り紙）

12月教室活動（書道）

1月教室活動（交通ルール）

教室の立ち上げに係る問題とその対応策	・交流形式の教室で実施をしているが、外国人が自ら発言できるような感じで教室が行えていない回もあったため、外国人が自ら発言（質問など）ができる環境を作るために、サポーターに聞き上手になってもらえるよう、指導していくことも必要である。また、外国と日本の違いについて、交流を通して学ぶ機会を設けることにより、多文化共生を図れると考えられるため、教室内容等についても、検討する必要がある。 ・教室内容については、大きなテーマについて何回かの教室に分け対話し、時間をかけより深いことまで学ぶ必要がある。

（3）その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
サポーター養成講座	2021年12月8日 19:30～20:30	サポーターの知識の醸成を図るために、日本語教室開催日に学習者の参加がないときに実施した。 実施をしたことにより、サポーターの意識の統一が図れた。 ・生活情報の伝え方について 　役所の場所や必要な情報を、わかりやすく「やさしい日本語」で伝える方法を学んだ。
食文化交流会 （中止）	2022年2月	例年、みやき町食文化交流会と共催で、食文化を通して外国人を講師と招くことにより、外国の食文化などを学び、多文化共生を図っているが、今年度については、新型コロナウイルス感染症の拡大を鑑み中止とした。

【主な活動】

5. 今年度事業全体について

進捗状況	・当初計画では日本語教室を毎月実施することとしていたが、新型コロナウイルス感染症及び大雨等による災害の影響により、10回の実施にとどまり、教室の流れなどは掴めているが、改善等まで実施できていない点がある。 ・外国人の現状調査においては、企業を継続的に訪問し、現状調査を行っている状況である。 ・若い人材の確保という点では、コーディネーターが近隣の高校を積極的に訪問し、多文化共生の現状や日本語教室の紹介などを行っているが、参加がないため、継続的に訪問し、学校と連携を図りながら継続的・安定的な教室の運営を目指す必要がある。 ・サポーター養成講座に関しては、教室開催の際に学習者の参加がない時間で対応し、サポーターの意識の統一を再度図ることができた。次年度以降についても、定期的に開催するとともに、今年度同様、学習者の参加のない教室の内容を変更し、養成講座を実施する。
事業推進にあたり問題点と対応策	・新型コロナウイルス感染症及び大雨等の災害により教室を実施できていない期間があったため、少人数であってもオンラインを活用した教室を実施する。 ・教室に関しては、改善まで実施できていない点があるため、次年度の教室の開催に関しては、1年間を3期に分けて教室を実施し、各期ごとで出た反省や問題点を次期の教室運営に反映させ、より良い教室のあり方を検討していく。
成果	・日本語教室を開催することにより、学習者の日本語のレベル等の把握はできた。 ・日常生活に関することをテーマとして教室を実施することにより、マナーやルールについて学ぶことができた。 ・若い人材確保という点では、近隣の高校を訪問し教室活動等の紹介を行うことで、理解を得られたため、実際に参加してもらうために次年度以降に参加しやすい仕組みづくりなどを検討し、積極的な参加を促していきたい。
地域の関係者との連携による効果	・町内の企業に継続的に訪問することにより、担当者同士の連携が昨年度よりさらに密になり、今後活動していくうえで、協力が得やすい関係を構築することができた。 ・教室活動を1年間実施したことにより、今まで外国人住民の存在をあまり知らなかった方からも、コーディネーターに対し教室の件でお問い合わせがあったりしているため、多文化共生の意識が住民の方に少しでも出てきたのではないかと感じている。 ・次年度以降は、今年度以上に教室活動の情報発信を積極的に行い、住民等の多文化共生の意識をより高めることができるのではないかと考えている。
コーディネーターの主な活動	・事業計画の策定（2.00時間） ・企業訪問（32.25時間） ・ボランティア養成講座（2.00時間） ・教室・講座の内容の調整（30.75時間） ・各種会議（9.00時間） ・日本語教室（18.00時間） ・コーディネーターA（94.00時間） ・コーディネーターB（70.75時間） ・コーディネーターC（82.50時間） ・コーディネーターD（42.50時間）
アドバイザーの主な助言	・大きなテーマについて、何回かの教室に分けて行うことで、深いところまで掘り下げて学ぶことができる。 ・オンラインを活用した教室を実施する場合は、事前の準備が重要になるため、前々からしっかり準備し、テストを何度も重ねて実施することが重要である。 ・地域日本語教室がただ単に日本語を教える教室になるのではなく、外国人が何か気軽に相談のできるような立ち位置となる機能を兼ね備えることも重要であり、そのことが地域社会にとって良い基盤となる。
今後の課題	・新型コロナウイルス感染症等の影響により対面での活動が制限されることもあるため、早期にオンラインでの活動を試行し、場所を問わない活動ができるように整備を行う。 ・安定的な教室運営を行うために、若い世代にサポーターとして参加してもらう必要もあるため、今年度訪問した学校以外にも訪問等行い、教室活動を周知し、参加しやすい仕組みづくりを行う。 ・サポーターに関しては、町職員にも呼びかけを行い、積極的な参加を促し、行政から多文化共生を推進していく仕組みづくりを行う必要がある。 ・外国人住民とサポーターやコーディネーター（日本人住民）が素直な意見交換をしながら、対話を通じて教室の内容やテーマを一緒に考え検討し、対話の中でお互いの気持ちや考えや希望などを理解し合えるような教室の仕組みを作る必要がある。
今後の予定	・日本語教室開催について、1年間を3期に分けて実施し、各期ごとに大きなテーマに関する教室内容を実施する。また、各期ごとに振り返り反省等を協議し、次期の教室運営に生かす仕組みを作る。 ・町職員に対しサポーターの募集を行い、行政から多文化共生を推進する仕組みづくりを構築する。 ・町内の行事等にも積極的に参加し、日本語教室活動の周知や多文化共生の推進を行う。

本件担当　：　佐賀県みやき町まちづくり課